

**B03a**            **流星痕をもっとよく見たい！ - 流星痕に振り回された幸運なアマチュア観測者の5年間 -**

戸田雅之、比嘉義裕 (日本流星研究会)、藤田充宏 (仙台天文同好会)、山本真行 (高知工科大学)

金星よりも明るい流星を火球と呼ぶ。その跡にすじ状の雲のようなものが残り、明るさや形を変えながら数秒から数十秒、時には10分以上も光り続けるものを流星痕と呼ぶ。ある時、スパイラル状構造が連続する痕のスケッチに遭遇した。「どうしてこんな形になるんだ？」この疑問が現在に続く流星痕形状に興味を持つきっかけとなった。よりよい流星痕画像を得るために「観測プランの立案 機材更新 観測 研究者との議論 次の機会に反映」を繰り返した。1998年のしし座流星群を前に流星痕同時観測キャンペーン (METRO) を戸田と山本 (当時東北大博士課程院生) でスタートした。以後学会・研究会での発表とプロの研究者との意見交換、観測、研究と広報の同時進行でしし群に挑んだ。多くのアマチュアの協力とプロとの議論と後押しが得られたキャンペーンで、大量の流星痕データに裏打ちされた流星痕形状についての新たな知見が得られただけでなく、流星痕観測のすそ野が広がり、多くのアマチュアにサイエンスへの入口を提示出来たのがこの5年間の大きな成果である。